

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホーム つばさ		
所在地	静岡県焼津市田尻北790番地		
自己評価作成日	平成23年2月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 igo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22951

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成23年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の食事作りは、できるかぎり入居者に参加してもらい、皆で食事の準備から片付けまでを行うようにしている。おやつも手作りのものを提供するよう心がけている。
ホームの所在地が、海に近く、近所に大きな公園があるなど、近隣の環境が良いので、散歩にでかけることも多い。
入居者の方には、できるかぎり自宅で生活していた頃と変わらない日常生活を送っていただけるよう、夜間帯での入浴にも対応する等行動に制限を設けないよう注意している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園も点在する郊外の住宅地に事業所は立地している。広い公園や海岸にも近く、早朝に日の出を利用者と一緒に拝みに行くこともあるという好環境にある。昨年7月に開設した新しい建物は、最新のユニバーサルデザインを実現していて、間接照明や広いテラスなどが備えられている。また同法人の介護老人福祉施設が隣にあり、合同での取り組みも多く、行事プログラムが多彩である。特に交流レクリエーションは職員と利用者の全員が参加し、大きな盛り上がりみせた。職員は長年地域の福祉を支えてきた法人内施設から異動した者が多く、経験も豊富である。法人内の多様なケースや経験を共有できるという強味を生かし、相互に相談しあったり伴に研修に参加するなど、驕ることなく研鑽を続けている。特に接遇についての取り組みは意欲的であり、職員の対応からもその質の高さが覗えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 2295100164					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。会議の都度振り返りを行っている。	課題が生じた時に理念である「笑顔あふれる和みの家」に立ち返り、考察の軸としている。職員は入居者の笑顔が引き出せるよう、自ら笑顔を心掛け、癒しの空間づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の防災訓練などに参加している。	桜まつり、盆踊り大会、幼稚園の夏祭、中学校の文化祭の展示会、中学生の合唱コンクールなど多くの行事に参加している。事業所の秋祭りには地域から数百人もの参加者があり、子どものダンス披露などで盛り上がる。	ボランティアの参加を呼びかけることに尽力されているため、さらに定期的かつ多様な交流の充実が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はまだ取り組んでいない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や子供会とのつながりなど、地域との交流に努めている。	利用者、家族、民生委員、市職員、学識経験者などが参加し2ヶ月に1度開催している。民生委員からの紹介で民協定例に参加できたり、子供会とのつながりの契機になるなど、運営が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて報告、また適宜連絡を取っている。	市の担当は毎回参加している。市には案内や報告を届け、日頃から関係づくりに努めている。また業務や対応について質問確認をしたり、アドバイスをもらうことで、事業所のことも理解してもらうよう心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止の勉強会を開催している。	身体拘束ゼロ宣言し、勉強会で時間をかけて取り組んでいる。特にスピーチロックについては、職員ごとに振り返りがおこなわれている様子が議事録で確認された。やむを得ず行う場合の同意書、記録用紙も備えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。対応が難しい入居者については話し合いを行い、統一したケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し、学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会にてアンケートを実施。 また、面会の際には必ず意見要望等の確認を行っている。	家族会には多数の家族が参加し、ハンガールの設置や外出の意向など運営改善の意見があげられている。家族への報告は前向きな言葉を工夫し、次も笑顔で来所してもらえるよう心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回会議開催前にはアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。	主となる職員は係や委員などを担当している。各々責任を持つことにより、相互に支援できる体制づくりに役立っている。困ることがあれば役職にかかわらず質問しあい、助け合うという効果がみられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、隣接施設の内部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のGH連絡会に参加している。 (1回/3ヶ月)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成 センター方式 B-3シートの記入		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院の利用 外出について家族に提案し、必要に応じて協力体制を整えている。	お墓参りに行く利用者も多く、家族の協力を得て支援している。また、近所の海岸まで行って、職員と一緒に日の出を見ることもある。事業所で3種類の新聞を取り寄せ、週刊誌もラックに多く取り揃えてある様子が見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入	口にできない本人の思いや、家族からの聞き取りを重視している。聞き取りや様子の観察が増えたことでケアの振り返りにつながり、また「職員間の話し合いを大切にする」という意識傾向にある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査資料の作成 センター方式 B-3シートの記入		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりケアチェックを行い、アセスメント要約表を記入し介護計画を作成する。カンファレンスには、代表者、介護支援専門員、計画作成担当者、担当介護職員、看護職員、家族が出席する。	モニタリングは担当制になっていて、職員が一貫して利用者を見る事が実現できている。家族の参加により三位一体のプランづくりとなり、状況の変化や推移を見極めることに役立っている。	スキルの高い職員が多いことから現職員の定着への施策ならびに新人職員の育成が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録の記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する特養との交流		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りへの参加。 スーパーへの買い物に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報の共有。 医師の往診あり。	以前からのかかりつけ医を継続している利用者も多い。常勤の看護師がおり、月2回嘱託医の往診がある。職員から医師に直接連絡できるなど、提携医療機関と連携することができる。医療情報は介護支援記録により共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。 往診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、適宜家族に確認。 家族と方針を共有している。	ターミナルケアについては担当者会議を開催の折、都度家族に確認している。医療行為については現在受けられないが、今後は体制を整えてできるだけ意向に応じていきたいという目標がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習受講。 (心配蘇生法、AED)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備 定期的な防災訓練の実施。年に2回は隣接の特養と合同で、地域住民にも協力を依頼し、総合防災訓練を行っている。	避難所として登録しており、防災訓練には地域の協力もあった。このたびの地震の際には自治会長もすぐ駆けつけたことから、普段からの協力関係が視える。地震や風水害のマニュアルも視認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応している。 スピーチロックの勉強会の実施	スピーチロックについては普段から認識し、マナーの向上を目指している。また、会話は利用者を交えておこなうように職員間で留意している。職員同士の業務連絡については、利用者と別の場所でおこなうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。 夜間帯にも入浴できるよう実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、ぬり絵、カラオケ、体操、習字など好きなものへ参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカラー、パーマの実施		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の検品、切る→調理→配膳→片付けと、それぞれの入居者が得意とする部分に参加してもらっている。	野菜の下ごしらえ、食器の後片付けなどの家事には半数以上の参加がある。数を重ねることにより、積極性がみられてきている。おやつは手作りのものが多く、ホットケーキやカステラなどを利用者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、介護職員、看護職員が情報を共有し、支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレにて排泄してもらえるよう、職員2人にて介助を行っている。	トイレで排泄してもらうことを方針としている。排泄パターンを把握することで声掛け誘導を心掛け、安易なおむツ利用をせずにいる。拒否が多かった利用者も、対応の工夫によりトイレ排泄が実現したこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに牛乳や野菜を取り入れ、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に合わせ、夜間帯であっても入浴できるよう体制を整えている。	週2回の入浴を原則としているが、希望により曜日の変更は自由にできる。夜間の入浴は、午後7時ころまで対応している。心身ともリラックスできるように2人介助が必要であれば2人で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。 また、夜間ぐっすり眠れるよう日中の活動量の調達を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報のファイリング実施。 また、会議において個々の薬についての勉強会の実施。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	社交ダンス、ケーキ作りなど、個々に応じた支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間の連携を密にし、利用者の希望に応じて外出してもらっている。中学校の作品展示会などにも出かけている。	公園や富士山の見えるスポット、周囲の探索など散歩は自由なコースを選択できている。近くの公園では幼子の遊ぶ様子やグランドゴルフをみたり、その場に集う皆さんと挨拶を交わしたりしている。地域の遊戯施設など、車の外出も随時おこなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理の下、お金を持っている方もいる。食費より出費し、好きなおやつを買いに行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎを行っている。携帯電話等も自由に持ち込んでいただいている。年賀状の発送。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	非常口、トイレにカーテンを取り付けている。	間接照明や和紙を使った照明などが上手に配置され、目に優しい明るい空間になっている。可動式の畳コーナーが設置され、利用者同士の距離感も縮むため好まれる。換気、温度、湿度について時間ごとにチェックし記録していることから、細かな配慮があることが見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム全体がフローリングのため、居間に畳コーナーを設置し、入居者が足を伸ばして寛げる空間を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた筆筒の持込や、家族の写真を飾ったりしている。	落ち着いた色合いと木目の天井が安心感を与える居室である。私物の持ち込みを大切にしている、自宅で使っていた鏡や写真立て、ソファなどが持ち込まれ、生活感のある居室が実現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、廊下等は車椅子やシルバーカー等を使用しても安全に使用できるよう適切な広さを確保し、自立を促している。		